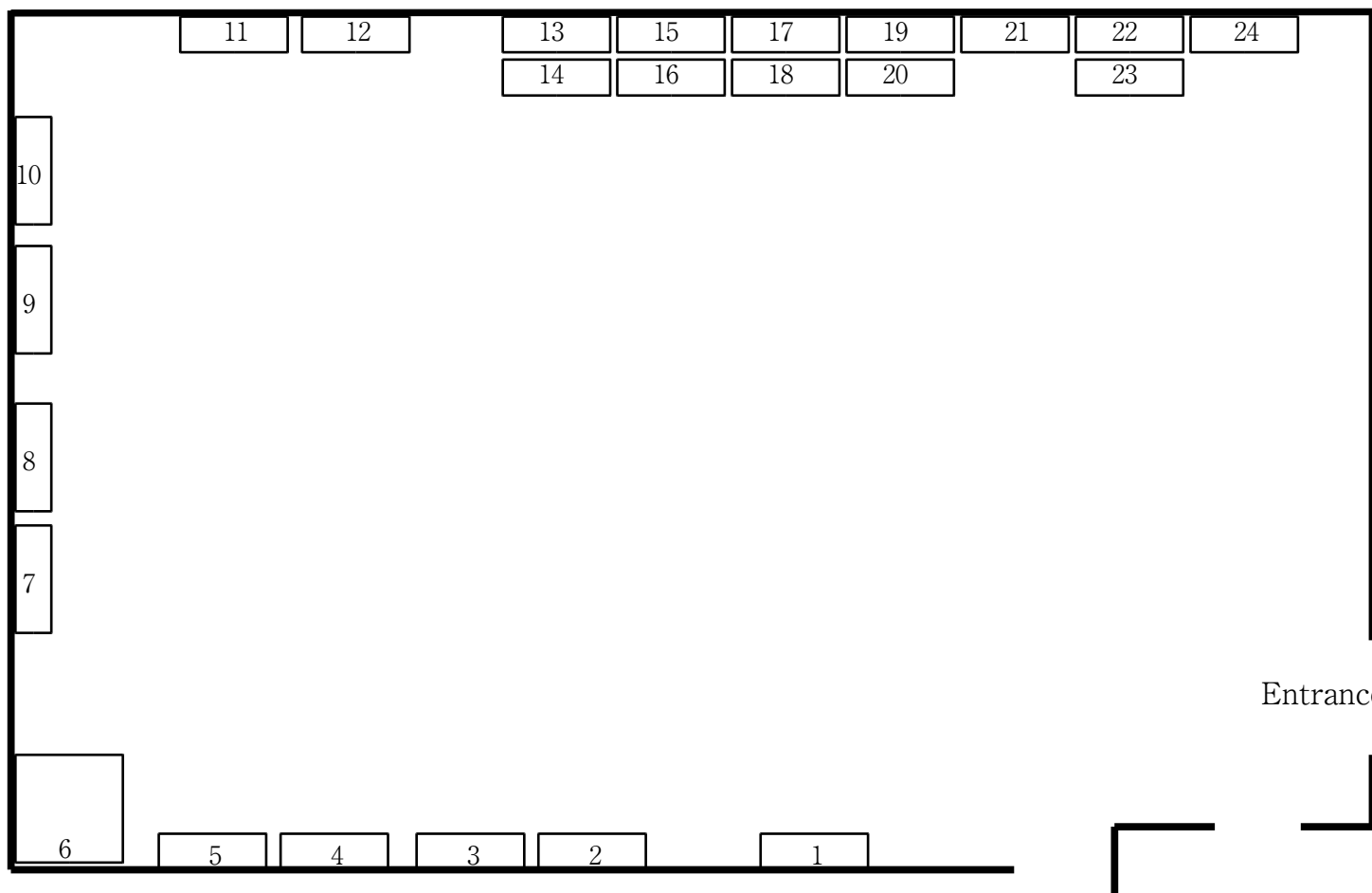


中根秀夫展「木々と日々」-2020.10.4(sun) – 10.17(sat)



Entrance

No	作品名	制作年	サイズ(mm)	技法/素材	価格(税抜)	価格(税込)
1	「もういちど秋を」より《Unit 1_0009 / _0028》	2016	各 62x113	ラムダプリント (ビデオスチル)	¥ 27,000	¥ 29,700
2	ミツバチの死 《ephemeral eternal》	2018	407x545	ラムダプリント／フォトアクリル	¥ 128,000	¥ 140,800
3	窓 (アオギリ) 《ephemeral eternal》	2018	407x545	ラムダプリント／フォトアクリル	¥ 128,000	¥ 140,800
4	白い日 《ephemeral eternal》	2018	307x413	ラムダプリント／フォトアクリル	¥ 90,000	¥ 99,000
5	隙間 《ephemeral eternal》	2018	307x413	ラムダプリント／フォトアクリル	¥ 90,000	¥ 99,000
6	ephemeral eternal	2020/18	φ 160x h.30	蜂, 乾燥した花びら, ガラスシャーレ		非売品
7	marjoram 《2018.00709.06:33》	2018	128x194	ラムダプリント	¥ 45,000	¥ 49,500
8	marjoram 《2018.00709.06:36》	2018	128x194	ラムダプリント	¥ 45,000	¥ 49,500
9	木々と日々	2018	407x545	ラムダプリント／フォトアクリル	¥ 128,000	¥ 140,800
10	新宿御苑側道にて《ephemeral eternal》	2018	407x545	ラムダプリント／フォトアクリル	¥ 128,000	¥ 140,800
11	木戸駅と 《2019.1206.15:37》	2019	438x586	ラムダプリント	¥ 128,000	¥ 140,800
12	うつくしいくにのはなし	2013	388x587	ラムダプリント	¥ 128,000	¥ 140,800
13	木戸駅と 《2013.0901.16:39》	2013	193x290	ラムダプリント	¥ 48,000	¥ 52,800
14	木戸駅と 《2013.0901.16:42》	2013	193x290	ラムダプリント	¥ 48,000	¥ 52,800
15	木戸駅と 《2015.0628.11:35》	2015	193x290	ラムダプリント	¥ 48,000	¥ 52,800
16	木戸駅と 《2015.0628.11:40》	2015	193x290	ラムダプリント	¥ 48,000	¥ 52,800
17	木戸駅と 《2015.0628.11:42》	2015	193x290	ラムダプリント	¥ 48,000	¥ 52,800
18	木戸駅と 《2015.0628.11:54》	2015	193x290	ラムダプリント	¥ 48,000	¥ 52,800
19	木戸駅と 《2016.0802.07:00》	2016	193x290	ラムダプリント	¥ 48,000	¥ 52,800
20	木戸駅と 《2016.0802.07:30》	2016	193x290	ラムダプリント	¥ 48,000	¥ 52,800
21	木戸駅と 《2016.0802.07:44》	2016	193x290	ラムダプリント	¥ 48,000	¥ 52,800
22	木戸駅と 《2018.0223.08:37》	2018	193x290	ラムダプリント	¥ 48,000	¥ 52,800
23	木戸駅と 《2018.0223.08:49》	2018	193x290	ラムダプリント	¥ 48,000	¥ 52,800
24	木戸駅と 《2018.0223.09:47》	2018	193x290	ラムダプリント	¥ 48,000	¥ 52,800
a	冊子：木戸駅とⅠ	2020		ソフトカバー 24ページ	¥ 1,100	¥ 1,210
b	冊子：木戸駅とⅡ	2020		ソフトカバー 24ページ	¥ 1,100	¥ 1,210
c	木戸駅とⅠ・Ⅱ (2冊組)	2020		スリーブ入り	¥ 2,200	¥ 2,420
d	冊子：平田星司 中根秀夫 作品集 ephemeral / eternal	2019		ソフトカバー 36ページ	¥ 1,100	¥ 1,210



中根秀夫 NAKANE hideo

1966 千葉県生まれ

1992 東京藝術大学美術学部絵画科日本画学科 卒業

1993 ブリティッシュ・カウンシルの奨学金を取得 渡英

1995 ロンドン大学スレード校大学院絵画科 修了

Official website : <https://hideonakane.co>

[主な個展]

2020 「木々と日々 - 木戸駅と2」 galerieH/東京

「木戸駅と - #KidoStation」 Galerie Nayuta /東京

「ちいさなくに - in a small realm」 中根秀夫映像上映会 さいたま市民会館うらわホール/埼玉

2019 「うつくしいくにのはなし II - forget-me-not」 Galerie SOL/東京

「もうひとつのもういちど秋を - Re: try to remember」 Galerie Nayuta /東京

2016 「美術と街巡り・浦和 中根 秀夫 展」 青山茶舗/埼玉

「もういちど秋を - try to remember」 Galerie SOL/東京

2014 「うつくしいくにのはなし - a tale of a beautiful country」 Galerie SOL/東京

2012 「鏡の中の - im Spiegel」 Galerie SOL/東京

「Video Works」 アートプレイスK/埼玉

2010 「カメラ・ルシーダ - Camera Lucida」 Galerie SOL/東京

2008 「White Plan」 Galerie SOL/東京

2006 「in ten yeas」 Galerie SOL/東京

2004 「Kinderszenen" and Otherness」 Galerie SOL/東京

2000 「子供の情景-Kinderszenen」 厚木市文化会館事業協会/神奈川

1997 「日常 - Ordinary Time」 厚木市文化会館事業協会/神奈川

[主なグループ展]

2018 「はるかな時のすきまで - ephemeral / eternal」 旧田中家住宅 川口市立文化財センター分館/埼玉

2017 第6回都美セレクション「海のプロセス-言葉をめぐる地図（アトラス）」展 東京都美術館/東京

2015 「Aesthetic Life - Automatic」 トキ・アートスペース/東京

2014 「白い日 - a white day 池内 晶子 / 中根 秀夫 - 写真」 Café & Galería PARADA/東京

2010 「エステティック / ライフ 中根秀夫 平田星司 展」 トキ・アートスペース/東京

2007 「第7回 寿限無 展 - DocuART」 Art By Xerox Gallery/東京

2003 「The LONDON GROUP at the walk, part 3」 the walk Gallery of Contemporary Fine Art/London

2002 「The LONDON GROUP 2002」 Trinity Theatre & Arts Centre/Tunbridge Wells

2001 「The LONDON GROUP 2001」 Woodlands Art Gallery/London

1998 「第3回 寿限無 展」 現代美術製作所/東京

1997 「VOCA展'97 現代美術の展望-新しい平面の作家たち」 上野の森美術館/東京

[その他]

2020 「try to remember 2020」 中根秀夫(映像)/かみむら泰一(音楽)「アートにエールを！」東京都

2013 「Mellow Yellow Project」 中根秀夫(映像)/かみむら泰一(音楽) ビデオプロジェクト

木々と日々

今回の個展「木々と日々」は、7～8月に開催した「木戸駅と」展の続編でもある。

木戸駅は福島県双葉郡楡葉町にある常磐線の小さな駅だ。
福島第一原発から20キロ圏内にあり、原発事故直後に町内全域に避難指示が出された。
津波の後始末をする間もなく人々は避難を命じられ、立ち入りが厳しく制限されることになる。
2013年9月、偶然にその場所に辿り着いたのだが、目の前に開けた悲しくも美しい風景に心を強く揺り動かされた。
楡葉町は2015年に避難指示が解除され、震災以降不通となっていた広野～竜田駅間の列車の運行が再開された。
この美しい土地を再び訪ねてみたいと思った。
初めて木戸駅を降り、以来、撮影のためにこの場所を行き来する。

オリンピックが開催されるはずだった2020年、TOKYOとFUKUSHIMAの非対称性について考えている。
コロナ禍に際し、両者にはますます隔たりを感じる。
震災と原発事故の当事者ではなく、しかし同時に福島から送られて来る電気を無自覚に消費し続けた当事者として、この小さな過疎の地を通して考え続けること。
そして美術家として、その事実により自覚的であり続けること。
「傷」や「痛み」について何度でも問い直すこと。

全ては「日々」のことである。他者(ひと)の悲しみに寄り添うことの「不可能性」について考える。
ひとりひとりの場所と時間に、ひとつの像／イメージを与える。
それは言葉であり、また記憶でもある。
その場に開かれた小さなプロセスに小さな言葉が放たれ、
その言葉はあなたの指先に微かに触れる。

2020年10月

中根秀夫